

慢性期看護論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・石井真紀子

科目担当者（職位・氏名）：助教・吉岡智大、助教・添田咲美、助教・佐藤大介、
助手・小笠原千恵

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：63

■ 授業概要

代表的な慢性疾患を持つ人とその家族に必要な看護援助について、その根拠となる健康障害（病態、検査・治療）と、対象が抱える健康問題を、倫理的課題を含めて理解する。これらの理解を通して、慢性期看護学におけるコアとなるケア・スピリット（倫理的な姿勢）について学修し、慢性疾患を抱えながら生活する患者・家族に対する看護の方法を修得するよう教授する。

■ 到達目標

1. 慢性疾患を持つ成人期の対象とその家族の特徴が、身体・心理・社会的な側面から説明できる。
2. 生活習慣に関連する病態や疾患の発生機序が述べられる。
3. リハビリテーションの概念やリハビリテーション看護の概念が説明できる。
4. それぞれの慢性疾患の病態や経過、治療などの特徴と必要な看護援助が述べられる。
5. 対象とその家族が健康障害による症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら日常生活を調整していくための看護援助について説明できる。
6. 対象とその家族のセルフケアを可能にするための援助技術が実践できる。

■ 教育内容

成人看護学

■ キーワード

成人期、慢性疾患、リハビリテーション、生活習慣、セルフモニタリング、セルフマネジメント、ケア・スピリット、QOL

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	慢性期看護総論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・慢性的な健康(機能)障害をもつ成人と家族の特徴と理解 ・生活習慣と健康障害、予防 ・行動変容を促す支援 ・生涯にわたるセルフマネジメントの支援 	石井
2	代謝・内分泌機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病患者の看護、他 	添田
3			
4	糖尿病患者のセルフモニタリング・セルフマネジメント①	演習 1 <ul style="list-style-type: none"> ・血糖自己測定 (SMBG) ・インスリン自己注射 	共同
5	糖尿病患者のセルフモニタリング・セルフマネジメント②	演習 2 <ul style="list-style-type: none"> ・フットアセスメント ・フットケア 	共同
6	看護過程：糖尿病患者の看護①	演習 3 <ul style="list-style-type: none"> 事例の理解（動画視聴） 病態の理解 心理・社会的特徴の理解 	共同
7	脳・神経系機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護①	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中、高次脳機能障害患者の看護 	吉岡
8			
9	脳・神経系機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護②	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症の患者看護 	石井
10	呼吸機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・肺気腫、慢性閉塞性肺疾患患者の看護 	吉岡
11			
12	循環機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性心不全患者の看護 	添田
13			
14	腎機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性腎臓病・腎不全患者の看護 	添田
15			

16	運動機能（自己免疫系）に慢性的な障害のある人とその家族への看護	・ 関節リウマチ患者の看護	吉岡
17	がん看護総論①	・ がんの疫学と政策 ・ がんの病態と臨床経過 ・ 予防と早期発見	石井
18	がん看護総論②	・ 集学的治療の意義 ・ 治療方針の意思決定とインフォームド・コンセント ・ がん患者と家族の心理・社会的特徴	石井
19	がんの治療とその看護①	・ 化学療法と副作用に対する援助	石井
20	がんの治療とその看護②	・ 放射線療法と副作用に対する援助	石井
21	造血機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護	・ 白血病患者の看護 ・ 悪性リンパ腫患者の看護	石井
22	看護過程：糖尿病患者の看護②	演習 4 アセスメント、関連図、全体像	共同
23	消化・吸収機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護①	・ 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）患者の看護	吉岡
24	看護過程：糖尿病患者の看護③	演習 5 看護問題の抽出（優先順位の検討） 看護計画の立案	共同
25	消化・吸収機能に慢性的な障害のある人とその家族への看護②	・ 慢性肝炎・肝硬変患者の看護 ・ 胆嚢・膵臓疾患患者の看護	添田
26	看護過程：糖尿病患者の看護④	演習 6：グループワーク・発表① アセスメント関連図、全体像	共同
27	看護過程：糖尿病患者の看護⑤	演習 7：グループワーク・発表② 関連図、全体像 看護問題の抽出（優先順位の検討）	共同
28	看護過程：糖尿病患者の看護⑥	演習 8：グループワーク・発表③ 看護計画の立案	共同
29	リハビリテーション看護の総論	・ リハビリテーションとは ・ リハビリテーション看護とは	ゲスト スピー カー

30	リハビリテーションにおける多職種連携の総論と実際	・リハビリテーションにおける多職種連携とは ・多職種連携の実際	ゲスト スピー カー
----	--------------------------	------------------------------------	------------------

■ 履修条件

関連科目（疾病治療論Ⅰ・Ⅱ）を履修していること。

■ 成績評価方法

15回終了後に中間試験を実施する（60分）。

中間試験：40%、期末試験：40%、課題（看護過程、演習の自己学習）：20%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・ 期末試験の成績概要と解説を Google Classroom にアップロード（掲示）する。
- ・ 希望者に対して評価（期末試験）のフィードバックを行う。希望者は試験日から2週間以内に事前にアポイントメントを取ったうえで石井の研究室（研究室6）を訪ねること。
- ・ 看護過程や演習の課題レポートは、コメントを付して返却する。

■ 教科書

- ・ 『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
 - 26巻 成人看護学 ② 健康危機状況／セルフケアの再獲得
 - 27巻 成人看護学 ③ セルフマネジメント
 - 29巻 成人看護学 ⑤ リハビリテーション看護
- ・ 野崎真奈美他編（2022）『成人看護学 成人看護技術 改訂第3版』南江堂
- ・ 川合眞一他編（2023）『今日の治療薬 2023 解説と便覧』南江堂

■ 参考書・参考資料等

その都度提示

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

講義1コマにつき、事前・事後学修として計45分程度必要とする。演習は2コマにつき事前・事後学修として計90分程度必要とする。

■ 担当教員からのメッセージ

疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論などで学んだ知識を基に統合し理解を深めて欲しい。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 6、ishii★iwate-uhms.ac.jp、オフィスアワーは特に定めない。事前連絡をしてから訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有 (看護師)

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

ゲストスピーカーは、臨床で専門性の高いリハビリテーション看護を実践している。

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での臨床経験を生かして、慢性期にある患者と家族に対する看護について講義・演習を行う。